

新潟市 胃内視鏡検診研究
ニュースター

「チューリップ通信」は
新潟市の胃内視鏡検診の研究に
ご協力いただいている方にお送りしている
ニュースターです



見出し

*アンケートへのご協力をお願いします。	……1
*高齢者は何歳から？	……2
*お願い：追加解析について	……4
*胃がんのリスク	……4

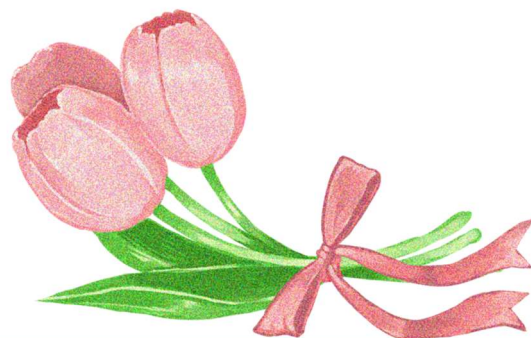
発行日 令和4年11月1日
発行元 胃内視鏡検診研究事務局
URL <http://www.j-sasg.jp/>

アンケートへのご協力をお願いします。

我が国でも新型コロナウイルス感染症の終息も見えない日々が続いています。この間、生活も変化してきました。医療機関での感染症対策も徹底し、安心してがん検診や診療が受けられるように環境も整備されてきました。皆様にも、定期的ながん検診を受診頂くと共に、何か心配な症状がある場合には、かかりつけ医にご相談頂くことをお勧めします。

令和4年度は、昭和27年4月1日から昭和28年3月31日生まれの方々に10年目のアンケートをお送りします。また、昭和30年4月1日から昭和31年3月31日生まれの方々に7年目のアンケートをお送りします。お手数をおかけしますが、皆様には、引き続き、健康状態に関するアンケートへのご協力をお願いします。

研究事務局では、皆様の健康に関するご相談を受け付けております。電話やメールなどで、いつでもご相談頂けます。ただし、緊急な対応は難しく、少しお時間を頂くこともありますので、予めご容赦ください。



本研究は、日本医療研究開発機構研究費による「個別リスクに基づく適切な胃がん検診提供体制構築に関する研究」（課題番号：22ck0106729）研究班（研究代表者 深尾彰）の一部として行っています。

高齢者は何歳から？

「最近の高齢者は元気がいい」という話はしばしば耳にします。政府の保健統計などは65歳以上を高齢者としています。特別な疾患がない限りは65歳からが介護保険サービスの対象となります。また、新たな医療保険制度として創設された後期高齢者医療制度は75歳以上が対象となっています。最近では、日本老年学会・日本老年医学会では、高齢者の定義を75歳以上とし、90歳以上を超高齢者とすることを提案しています。

日本は世界一の長寿国であり、その成果には日本の医療保険制度が貢献してきました。平均寿命は、男性81.4歳、女性87.5歳となり、今後さらに増加するという予測も出ています

(図1)。平均寿命の増加は社会で暮らす高齢者が増加することになります。現在、高齢化率(65歳以上の高齢者の割合)は28.9%となっています(2021年10月)。今後も高齢化率のさらなる増加は予測され、2025年には30%を超えることが予想されています。高齢者の増加に伴い、労働力人口の減少や社会保障費の増加などが社会的にも注目されています。

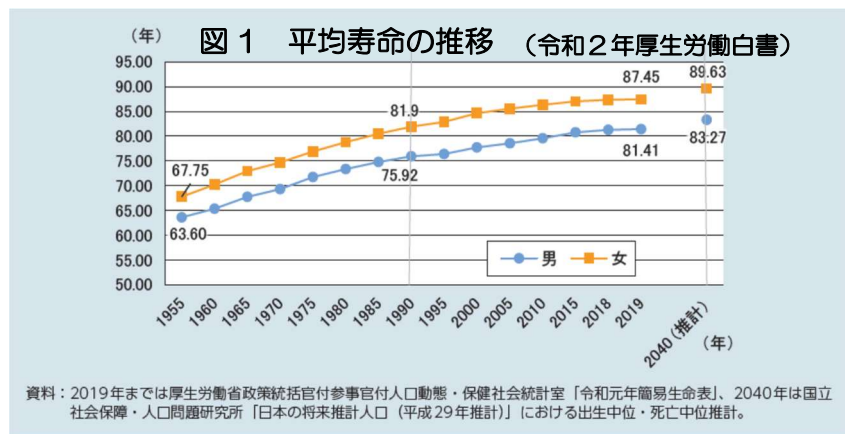
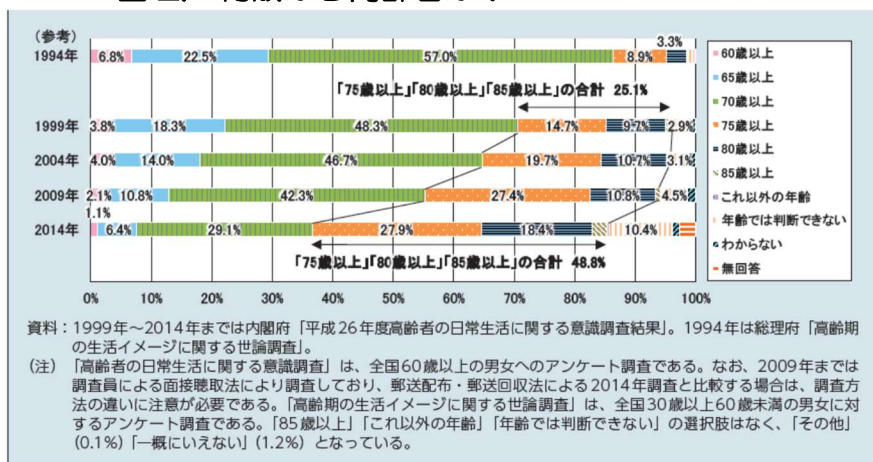


図2. 何歳から高齢者か？ (令和2年厚生労働白書)

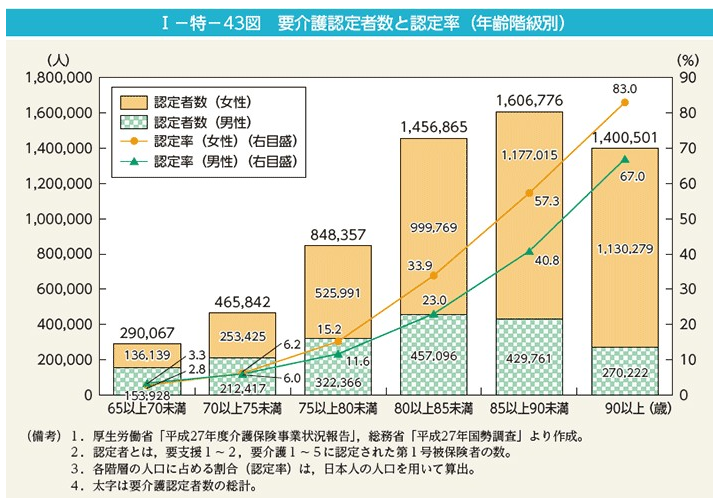
何歳から高齢者と定義するかについては、社会の意識が変わりつつあります。内閣府が行った調査では、75歳以上からを高齢者とする人の割合が約50%を占めています



(図2)。日本の高齢者就労率は諸外国に比べ、高いことも知られています。しかし、介護保険の認定者は75-80歳では80万人ですが、80歳以上を超えると150万人近くに増加します(図3)。

健康な老後を過ごすことができるかどうかを示す指標に健康寿命という考え方があります。平均寿命はいつまで生きられるかを示す指標ですが、健康寿命はいつまで健康に生きられるかということを示す指標です。我が国は平均寿命も長い分、健康寿命が長いのですが、両者の差が以外に大きいことが知られています。平均寿命は男女ともに 80 歳を超え

図 3. 要介護認定者年齢 男女共同参画白書 平成 30 年版



ていますが、健康寿命は両者共に 75 歳前後です (図 4)。特に、女性は長生きをする分、必ずしも健康とは言えない老後を 10 年以上続けることとなります。そうすると、長生きをしても実は病気で悩んだり生活の支障をきたしながら、生活する高齢者が多いということを示しています。

最近では平均寿命を延ばすだけでなく、健康な老後を過ごすことが社会の目的になりつつあります。高齢者の健康づくりを推進するために、各地で様々な取り組みが行われています。神奈川県大和市では、「70 歳代を高齢者といわない」という宣言を出し、誰もが 100 歳まで元気で、社会から必要とされる「生涯現役」であるという意識を広めています。富山県では、「元気とやま！健康寿命日本一プロジェクト」として県全体で健康づくりのために、減塩運動を始めとする食習慣の改善やウォーキングなどの運動習慣の普及に取り組んでいます。多くの地域で、高齢者になっても社会との関わりを持ち、健康で暮らす仕組みづくりが進められています。

図 4. 平均寿命と健康寿命の比較(2019)



参考文献

内閣府. 令和 4 年高齢者社会白書

厚生労働省. 令和 2 年厚生労働白書

内閣府男女共同参画局. 平成 30 年男女共同参画白書

公益財団法人 長寿科学振興財団. 健康長寿ネット. 高齢者の定義再検討と新しい高齢者像: 日本老年医学会の取り組み (tyojyu.or.jp)

お願い：追加解析について

皆様には、日頃より、本研究にご協力いただきまして、ありがとうございます。今年、研究開始から11年目を迎え、今後は研究の最終的なまともに向けての準備の段階となりました。皆様のご協力もあり、幸いにも調査は順調に進んでいます。

新潟市は、本研究が研究費の支援を受けているAMED研究「個別リスクに基づく適切な胃がん検診提供体制構築に関する研究」（宮城県対がん協会倫理審査委員会承認）にも参加しています。この研究では、個人の胃がんリスクに合わせて胃内視鏡検診の検診間隔を設定するというものです。AMED研究は、私たちの進めている研究と類似していることから、一部の研究協力者の方々のデータを合同で追加解析することが提案されました。追加解析を行うことについては、研究責任者の所属する帝京大学倫理審査委員会の承認を受けました。

対象は、平成26年度、27年度、28年度の研究協力者の方々1,586人で初回に内視鏡検査と血液検査の両者を受診した約1,500人（確定数調査中）が対象となります。皆様には、新たなお願いすることはなく、特に負担になることはありません。追加解析に用いるのは、基本情報（性別・年齢など）、検診成績、血液検査結果、アンケート調査（除菌の有無など）、予後調査の結果等の情報です。研究成果については、チューリップ通信やホームページでご案内していきます。研究参加については、いつでも参加を取りやめることができます。この追加解析についてはご意見や質問がある方、ご辞退を希望される方は、胃内視鏡検診研究事務局にご連絡ください。

AMED 研究のヒント

胃がんのリスクをご覧ください。



胃がんのリスク

胃がんの主たるリスクはピロリ菌の感染です。主に乳幼児期に感染し、時間をかけて胃の粘膜に変化を起こします。胃癌がんが発生するベースとなるのが胃の粘膜の萎縮です。萎縮した胃の粘膜から、さらに時間をかけて胃がんが発生してきます。ただし、萎縮があれば必ず胃がんになるわけでもありませんが、胃の粘膜が萎縮していることは胃がんになりやすいということを示しています。一方、ピロリ菌に感染していない人の胃の粘膜に

は萎縮は起こりません。X線や内視鏡の検査を受けると、胃の粘膜が萎縮しているかどうかわかります。ただし、ピロリ菌の除菌を受けることにより、萎縮が改善する場合があります。内視鏡検査による2次情報を利用することで、胃がんのリスクの低い人（胃粘膜に萎縮がない）は2年毎検診を受けるのではなく、さらに検診の回数を減らせる可能性もあります。上記のAMED研究はこのために全国で行われています。

問い合わせ先

胃内視鏡検診研究事務局（新潟市医師会内）

電話 025-247-8900（9:00～16:00）

メールアドレス endoscope.jimukyoku@gmail.com